

放課後等デイサービス自己評価表（事業者向け・保護者向け） 実施報告書

令和4年3月22日

社会福祉法人つみき  
つみき第9  
管理者 板垣幸恵

放課後等デイサービスガイドラインに基づき、下記のとおり自己評価・保護者からの評価を実施しましたのでご報告いたします。

記

1、実施概要

自己評価表：常勤職員4名を対象に実施。

実施日：令和4年2月28日

保護者向け評価表：利用者保護者19名を対象に実施（有効回答12件）

実施期間：令和4年1月20日～令和4年2月4日

2、評価方法

自己評価表・保護者向け評価表の結果を参考に、意見の多かった点について職員間で討議。

3、公表方法

ホームページにて公表。広報誌『つみき新聞』にてその旨を告知。

4、主な工夫している点

保護者向けより

【設問3】事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切にされているか。

⇒施設が2階にあるため(エレベーターなし)、階段昇降が可能な方の利用とさせていただいている。

保護者からは職員のサポートがあるので問題ないのご意見をいただいている。

階段昇降時は利用児同士の手繋ぎはせず、安全に昇降するよう見守りを行なっている。

階段昇降が苦手だった利用児が交互に足を出して昇ることが可能になる等、身体機能の向上が見られている。

【設問 6】放課後児童クラブや児童館との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか。

⇒コロナ禍ということもあり、児童館での活動は難しい状況。また、児童館と連携して交流の機会を設けることは難しい現状がある。

公園遊びで自然と関わりが生まれる場面はあるため、そのような機会を大切にしている。長期休みなどに障害のない子どもが活動に参加し、一緒に過ごす機会を設けている。

【設問 16】非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか。

⇒設定活動として避難訓練を行ない、保護者へ様子を伝えていること、写真撮影を行ないその様子を写真販売や活動報告冊子に掲載したことで、避難訓練を行なっているということが認知されるようになった。引き続き、定期的に訓練に取り組んでいく。

【設問 17、18】子どもは通所を楽しみにしているか。事業所の支援に満足しているか。

⇒「毎回楽しみに通っている」、「行くときに気持ちがのらない時があるが行くと機嫌よく帰ってくる」、「困っていることや心配なことがある時は活動中に注視して丁寧な対応なので満足」などのご意見をいただいた。このようなお言葉をいただくことで、職員の意欲にも繋がっている。引き続き、1人ずつに寄り添い丁寧な支援を心がけていく。

事業者向けより

【設問 1】利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。

⇒広さを生かして遊ぶスペースと作業や食事を行なうスペースを色分けし、視覚的にもわかりやすくしている。

【設問 16】支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行ない、気づいた点を共有しているか。

⇒自宅送迎業務や終業時間の関係で終了後の決まった打ち合わせを行なうことが困難な状況。情報共有は積極的に行なっている。

【設問 28】日ごろから子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。

⇒保護者引継ぎ時に必要なことは伝えたり、ご家庭での様子を伺っている。

## 5. 主な改善すべき点（改善目標）

保護者向けより

**【設問 10】** 父母の会の活動支援や保護者会などの開催などにより保護者同士の連携が支援されているか

⇒コロナウィルス流行のため、保護者会は今年度も中止となった。感染状況が落ち着いたら職員の紹介、活動内容の紹介、保護者同士の交流の場として、保護者会を開催できるように考えていく。また、オンラインでの開催なども視野に入れるか検討していく。

**【設問 11】** 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。

⇒「どちらともいえない」の回答あり。支援や活動中での出来事などで疑問が生じた際のご連絡に対し、お話を伺い対応させていただいている。苦情に発展した例はない。

今後ご連絡やお話を受けた時には真摯に対応し、気持ちよく利用を継続していただけるように職員一同努力していく。

事業所向けより

**【設問 12】** 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか

⇒天候や参加メンバーの好みであること、季節などを考慮し工夫して活動プログラムを日替わりで立てている。他事業部の活動など知る機会を設けるとさらに活動の広がりを期待できると考えられるので、今後検討していく。

**【設問 16】** ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか

⇒ヒヤリハット事例が生じた際には記録を残している。法人内でその記録を元に事例集を作成している。部会で取りあげながら、共有を行なっていく。

以上